

令和 6 年 6 月 12 日現在

機関番号：82619

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K00186

研究課題名（和文）大谷探検隊将来品を中心とした西域美術の再評価に関する研究

研究課題名（英文）A Study on the Revaluation of the Art of the Western Regions, Focusing on Otani collection

研究代表者

勝木 言一郎（Katsuki, Genichiro）

独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸企画部・特任研究員

研究者番号：50249918

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：まず東京国立博物館が所蔵する大谷探検隊将来品を調査し、作品の主題や来歴を特定した。出光美術館、根津美術館、平山郁夫シルクロード美術館などでも西域美術コレクションを調査し、散逸した大谷探検隊将来品の一部であると判断した。西域美術模写作品も調査し、原本の所蔵先を特定し、作品の主題を解明した。つぎに彫刻作品に対し、蛍光X線分析によって材料を特定するとともに、高精細X線CTスキャンによって、内部構造、製作技法、修理過程、製作技法などが明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

東京国立博物館は、大谷探検隊将来品のほか、ペリオ探検隊将来品、ドイツ・トルファン探検隊将来品の一部、そして大英博物館やギメ東洋美術館、ベルリン美術館、韓国国立中央博物館が所蔵する西域美術の模写作品を所蔵する。これらの作品に関する主題、材質、製作技法、来歴などが特定された学術的意義は極めて重要である。また大谷探検隊将来品の一部が東京国立博物館以外の日本の美術館や博物館、個人コレクターのコレクションの中に確認できたことも特筆に値する。

研究成果の概要（英文）：At first, we surveyed the Otani collection of Tokyo National Museum to determine the subject matter and provenance of the objects. We also researched the collections of Central Asian art at the Idemitsu Museum of Arts, the Nezu Museum, and the Hirayama Ikuo Silk Road Museum, and determined that the objects were part of the scattered Otani collection. We also surveyed copies of central Asian artificates to determine where the originals were held and to elucidate the subject matter of the objects. Secondary, the materials of the sculptures were identified by X-ray fluorescence analysis, and the internal structure, manufacturing technique, repair process, and manufacturing technique were clarified by high-resolution X-ray CT scan.

研究分野：東西文化交流美術史学

キーワード：大谷探検隊将来品 西域 敦煌 トルファン クチャ ホータン シルクロード 中央アジア

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

#### a. 東京国立博物館の西域美術コレクションの概要

東京国立博物館の西域美術コレクションの歴史は、1957年7月にフランスの国立ギメ美術館との美術品交換を通じて、フランスの探検家ポール・ペリオの将来品を収蔵したことに始まる。その後も東京国立博物館は1968年7月に木村貞造が所蔵していた大谷探検隊将来品を、1996年7月にドイツの探検家ル・コックが将来したクムトラ石窟壁画を、そして2020年3月にホータンの壁画およびストゥッコの資料を購入し、西域美術コレクションを充実させてきた。現在、東京国立博物館の西域美術コレクションの数は、大谷探検隊将来品を中心に、絵画・彫刻・工芸・考古資料など約200件に達しており、その規模は日本最大である。

そのほか、東京国立博物館は大谷探検隊将来品のほか、ペリオ探検隊将来品、ドイツ・トルファン探検隊将来品の一部、そして大英博物館やギメ東洋美術館、ベルリン美術館、韓国国立中央博物館が所蔵する西域美術の模写も所蔵している。それらは西域美術コレクションを補完する役割を果たしている。

#### b. 大谷探検隊将来品の概要

大谷探検隊とは、20世紀初頭、本願寺の門主であった大谷光瑞が主宰し、西域を対象に学術調査を行った探検隊のことである。学術調査は、現在の中国新疆ウイグル自治区のトルファン、クチャ、ホータンなどにおいて、3回実施された。その際に収集された大谷探検隊将来品は、トルファンにおけるベゼクリク石窟壁画断片、アスターナ古墓群の土器、発掘品、クチャにおけるキジル石窟壁画断片やクムトラ石窟塑像断片、ホータンにおけるヨートカン遺跡出土のテラコッタなどからなる。その後、大谷探検隊将来品は分散し、主に中国の旅順博物館、韓国国立中央博物館、そして東京国立博物館、龍谷大学がそれぞれ所蔵することとなった。

#### c. 日本所在のヨーロッパ探検隊将来品

当時、イギリスの探検家スタインがホータンの遺跡を発見し、敦煌莫高窟で絵画や文書を収集したり、フランスの探検家ペリオが敦煌莫高窟で絵画や文書を収集したり、ドイツの探検家グリュンヴェーデルやル・コックがトルファンのベゼクリク窟やクチャのキジル石窟で壁画を収集したり、ロシアの探検家コズロフがカラホト遺跡や敦煌莫高窟で絵画や文書を収集したりした。それらの一部が日本にもたらされ、美術館、博物館や個人の所蔵となっている。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、東京国立博物館が所蔵する大谷探検隊将来品を中心に西域美術コレクションを再評価することにある。

東京国立博物館所蔵の西域美術コレクションの多くが、作品の主題や製作年代について、受入当時のままが更新されずに今日に至っている。実際、海外の西域美術コレクションや中国の石窟芸術に関する研究が進んでいる中であって、その懸隔はあまりにも大きいといわざるを得ない。

そこで本研究は、画像学や様式論など、美術史的な従来の方法を踏まえながら、蛍光X線分析による彩色材料の特定、ELISA法による膠着材の特定、高精細X線CTスキャンによる塑像の製作技法の解明など、近年、進展が著しい文化財科学による分析技術を駆使し、西域美術コレクションの見直しを図った。

### 3. 研究の方法

#### (1) 西域美術の絵画や塑像及び模写作品に対する画像学的、様式論的な調査研究

東京国立博物館のほか、美術館・博物館や個人が所蔵する西域美術の絵画や塑像に対し、トルファン、ベゼクリク石窟、クチャのキジル石窟やクムトラ石窟などの本来の所在地を確認するとともに、画像学的手法による作品の主題及び様式論的な手法による作品の製作年代の判察を行った。

また東京国立博物館が所蔵する模写作品を調査し、原所蔵先の特定や作品主題の解明を進めた。

#### (2) 西域美術の絵画や彫刻の材料や膠着材に関する調査研究

東京国立博物館や個人が所蔵する西域美術の絵画や塑像に対し、蛍光 X 線分析による材料の特定、ELISA (Enzyme linked immunosorbent Assay: 酵素結合免疫吸着法) による膠着材の特定をそれぞれ試みた。

#### (3) 西域美術の塑像の製作に関する調査研究

東京国立博物館や個人が所蔵する西域美術の壁画や塑像に対し、高精細 X 線 CT スキャン撮影やマイクロ스코プによる観察を行なった。

### 4. 研究成果

#### (1) 西域美術の絵画や塑像及び模写作品に対する画像学的、様式論的な調査研究

東京国立博物館が所蔵する大谷探検隊将来品を調査し、作品の主題や来歴を特定した。

出光美術館、根津美術館、MOA 美術館、平山郁夫シルクロード美術館、龍谷大学図書館などでも西域美術コレクションを調査し、散逸した大谷探検隊将来品の所在を確認できた。

また東京国立博物館が所蔵する模写作品を調査し、原所蔵先の特定や作品主題の解明を進めた。

東京大学東洋文化研究所、MIHO MUSEUM、東京黎明アートルームや個人コレクターが所蔵する西域美術コレクションを調査し、作品の主題や来歴を考察した。

#### (2) 西域美術の絵画や彫刻の材料や膠着材に関する調査研究

東京国立博物館が所蔵する如来像頭部に対し、蛍光 X 線分析を行った結果、材料に銅が使われたほか、鍍金が施されていたことが明らかとなった。

#### (3) 西域美術の壁画や塑像の製作に関する調査研究

東京国立博物館が所蔵する如来像頭部、菩薩像頭部、菩薩立像などに対し、高精細 X 線 CT スキャン撮影を行った結果、土の粒子の粗密を使い分けて塑像を製作したことや、修理過程が明らかとなった。

またマイクロ스코プによる観察の結果、塑像の表面上に繊維を確認でき、製作技法が判明した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Miho Takashima, Yuki Kumazawa, Yuki Taga	4. 巻 1
2. 論文標題 Analysis of Binding Media Using ELISA and LC-MS,	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Scientific Studies on Conservation for Saint Simeon Church and its wall paintings in Cappadocia, Turkey	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 金宇大、河野正訓、荒木臣紀	4. 巻 693
2. 論文標題 埼玉県皆野町稻荷塚古墳出土品の研究 単鳳環頭大刀を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 MUSEUM	6. 最初と最後の頁 5-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 宮田将寛
2. 発表標題 東京国立博物館におけるX線CT装置の導入と活用
3. 学会等名 韓国国立中央博物館との国際交流セミナー「日韓博物館における保存科学設備の活用及び展望」
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 勝木言一郎	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京国立博物館	5. 総ページ数 18
3. 書名 「シルクロード探検」「大谷探検隊」 東京国立博物館編『博物館でアジアの旅 アジア大発見!』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中川原 育子  (Nakagawara Ikuko)  (10262825)	名古屋大学・人文学研究科・助教    (13901)	
研究分担者	荒木 臣紀  (Araki Tominori)  (20537344)	独立行政法人国立文化財機構奈良国立博物館・その他部局等・上席研究員    (84603)	
研究分担者	谷口 陽子  (Taniguchi Yoko)  (40392550)	筑波大学・人文社会系・准教授    (12102)	
研究分担者	高嶋 美穂  (Takashima Miho)  (80443159)	独立行政法人国立美術館国立西洋美術館・学芸課・特定研究員    (82622)	
研究分担者	岩田 朋子  (Iwata Tomoko)  (80469204)	龍谷大学・公私立大学の部局等・准教授    (34316)	
研究分担者	宮田 将寛  (Miyata Masahiro)  (90737503)	独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸研究部・専門職    (82619)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------